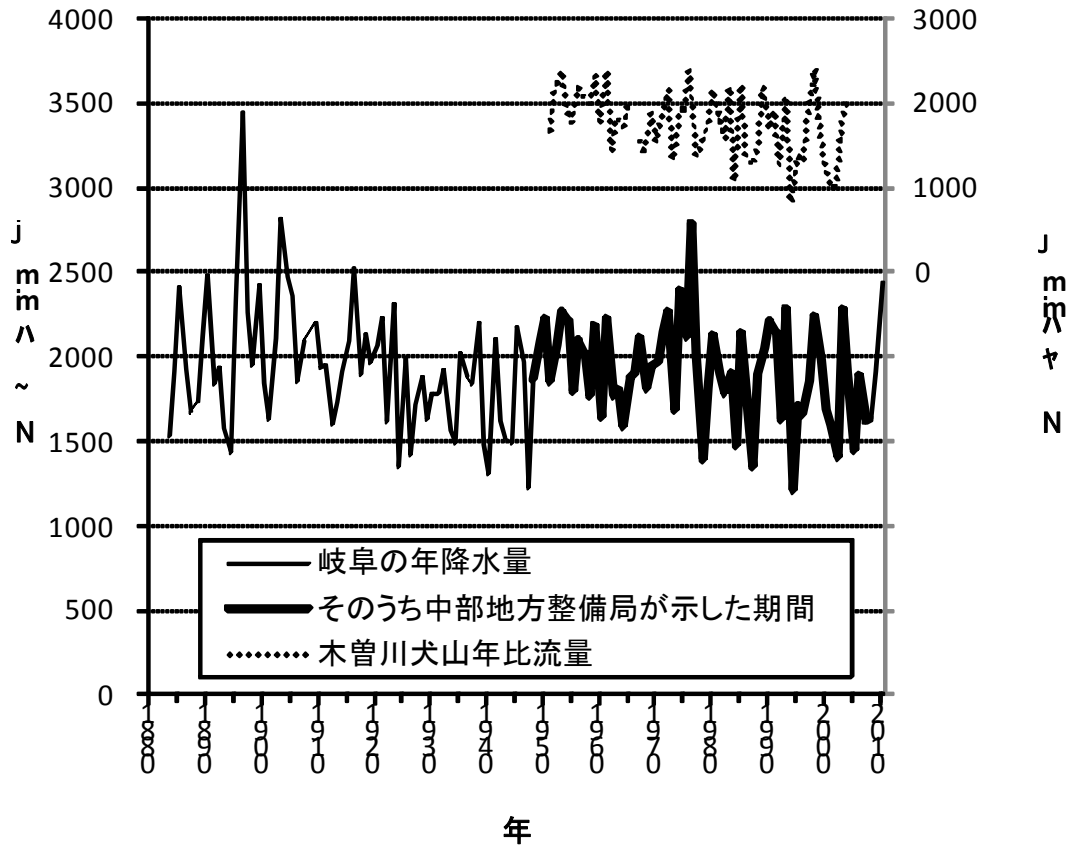


2011. 9. 1

利水 降水量の減少傾向について 補足

文責：蔵治光一郎



岐阜地方気象台における過去 110 年間の記録をみると、25 年程度の周期で多い→少ない→多い→少ないという変動をしているようにもみえる。

中部地方整備局がデータを使用した期間（1948～2008 年の 61 年間）は、雨が多い期間から雨が少ない期間に移行するタイミングである。この期間だけを取り出せば、減少傾向があるようにも見えるが、将来の水供給可能性を議論する場合は、できるだけ長期のデータを示して検討すべきである。現時点では、将来にわたって降水量の減少傾向が継続し続けるとはいえない。

同様に、河川流量の変動についても、提示されたデータでは、降水量の変動に連動しているようにも見えるが、現時点でそのように断定はできず、集水域の森林状態の変化などの他の要因の影響も考えられるため、さらに長期のデータや他の地点のデータも用いて、慎重に検討していく必要がある。

